

6 山形県気候変動適応センターの取組

(環境企画部)

1 はじめに

2018 年 12 月に気候変動適応法が施行され、都道府県及び市町村は、地域気候変動適応計画を策定することや、地域気候変動適応センターを設置することが努力義務として定められた。そこで、山形県では、2021 年 3 月に山形県気候変動適応計画を盛り込んだ第 4 次山形県環境計画を策定し、同年 4 月に山形県気候変動適応センター（以下、適応センター）を開所した。本報では、これまでに実施してきた取組について紹介する。

2 適応センターの取り組み

(1) 生物季節観測

2021 年からカエデ及びイチョウが紅葉した日の観測を、2022 年からはサクラの開花した日の観測を行っている。カエデ及びサクラは敷地内に植樹されているものを、標本木として設定した。イチョウについては敷地内になかったため、適応センターから南に約 500m の地点にあるイチョウを標本木としたが、2024 年に標本木が工事に伴い切り倒されてしまったため、2025 年以降は新たに標本木を設定する予定である。

結果は表 1 のとおりである。生物季節観測に加えて、生活季節観測として、センター全館暖房使用日を 2024 年から記録し始めた。まだ始めたばかりで傾向は不明だが、今後も継続することで、気候変動の影響が見えることを期待している。

表 1 センターにおける生物季節等の観測記録

	2021年	2022年	2023年	2024年
サクラ開花日	-	4/12	4/4	4/8
カエデ紅葉日	11/15	11/14	11/20	11/19
イチョウ黄葉日	11/15	11/14	11/9	11/13
センター全館暖房初使用日	-	-	-	10/30

(2) 自然観察会

令和4年度から、気候変動に関する座学と里山の散策を合わせた、自然観察会を年1～2回実施している。春に開催した自然観察会の詳細については「5 環境科学体験デー」に記載している。春の自然観察会参加者を主な対象とした自然観察会（秋の部）も実施しており、参加者に五感を使って季節の変化を感じてもらっている。

(3) セミナー等

年に1回、一般市民や自治体職員向けのセミナー等を開催している。令和6年度は、「地域気候変動適応計画作成説明会」と題し、国立環境研究所などの協力を得て、地域気候変動適応計画の策定に向けた研修会を、市町村職員向けに実施した。

(4) 気候変動影響の解析

山形新聞「花だより」に掲載された県内18箇所の開花等の情報を収集し、解析を行っている。どの地点でも開花が早くなっていること（図1）や、どのくらい早くなっているかについては、地点によって差が見られることなどを報告している¹⁾²⁾。また、「花だより」には開花だけでなく、満開や散り始め、葉桜などの情報も載っていることから、さらに情報収集、解析を進めている。

サクラの開花日の早まり:50年あたりの日数

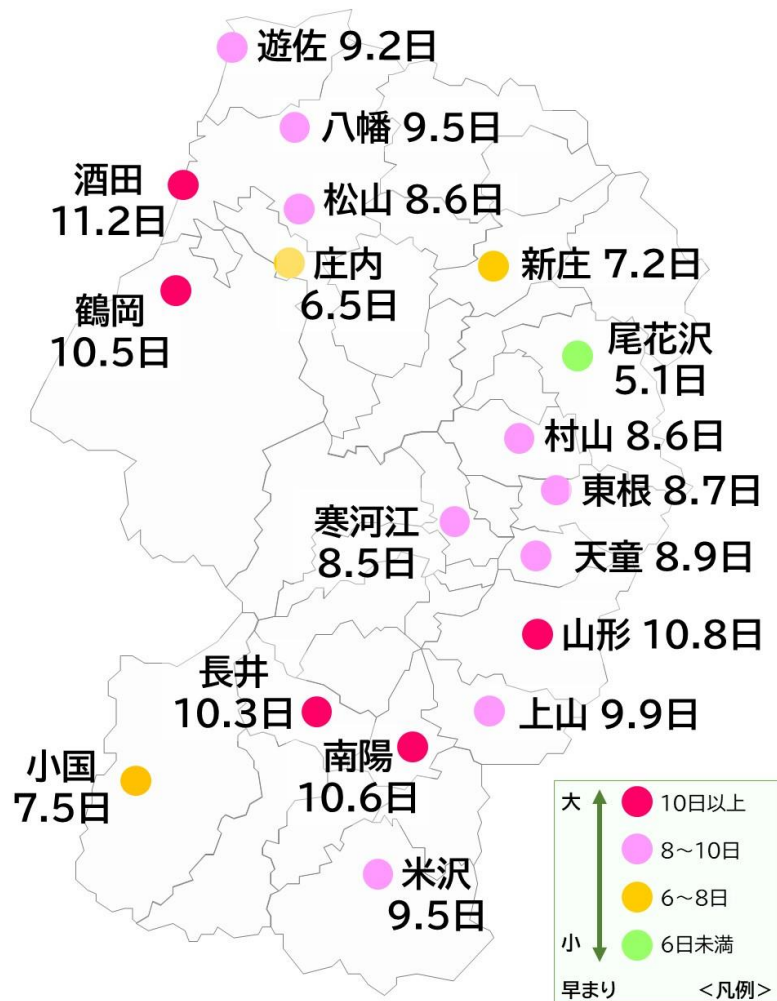


図1 山形県内のサクラの開花日の早まり(1975-2024年)

引用文献

- 1) 山形県環境科学研究センター年報, 第31号 令和5年度, p.32
- 2) 全国環境研会誌, Vol.49, No.3, 2024, p165-170